

# 力学系数学

6

$\mathbb{R}^{2n}$  の座標を  $(\mathbf{q}, \mathbf{p}) = (q_1, q_2, \dots, q_n, p_1, p_2, \dots, p_n) = (x_1, x_2, \dots, x_{2n}) = \mathbf{x}^T$  と書く．ただし，ベクトルまたは行列  $A$  の転置を  $A^T$  と書く．関数  $F(\mathbf{q}, \mathbf{p}) = F(\mathbf{x})$  が与えられたとき， $(\mathbf{q}(t), \mathbf{p}(t))$  に対する微分方程式

$$\frac{dq_i}{dt} = \frac{\partial F}{\partial p_i}, \quad \frac{dp_i}{dt} = -\frac{\partial F}{\partial q_i}, \quad i = 1, 2, \dots, n \quad (1)$$

を， $F$  が生成するハミルトン方程式と呼ぶ．以下の問いに答えよ．

(i)  $2n$  次の実対称行列  $A = (A_{jk})$  を用いて関数  $F_A(\mathbf{x})$  が

$$F_A(\mathbf{x}) = \frac{1}{2} \mathbf{x}^T A \mathbf{x} = \frac{1}{2} \sum_{j,k=1}^{2n} x_j A_{jk} x_k \quad (2)$$

と与えられるならば， $F_A$  が生成するハミルトン方程式は

$$\frac{d\mathbf{x}}{dt} = J A \mathbf{x}, \quad J = \begin{pmatrix} 0_n & I_n \\ -I_n & 0_n \end{pmatrix} \quad (3)$$

と書けることを示せ．ここで  $J$  は  $2n$  次正方行列であり，その中の  $I_n$  は  $n$  次単位行列， $0_n$  は  $n$  次零行列である．

(ii)  $2n$  次の実対称行列  $B = (B_{jk})$  を用いて関数  $F_B(\mathbf{x}) = \frac{1}{2} \mathbf{x}^T B \mathbf{x}$  を与える． $\mathbf{x}(t)$  はハミルトン方程式 (3) をみたすとする． $F_B(\mathbf{x})$  に  $\mathbf{x}(t)$  を代入したとき，任意の初期条件  $\mathbf{x}(0)$  に対して  $F_B(\mathbf{x}(t))$  が  $t$  に依らないための必要十分条件は

$$A J B - B J A = 0_{2n} \quad (4)$$

であることを証明せよ．

(iii)  $A = I_{2n}$  とする．また， $n$  次正方行列  $a, b, c$  を用いて

$$B = \begin{pmatrix} a & b \\ b^T & c \end{pmatrix}, \quad a^T = a, \quad c^T = c$$

とおく．このとき， $B$  が式 (4) をみたすための必要十分条件は

$$a = c, \quad b^T = -b$$

であることを証明せよ．

(iv) とくに  $n = 2$  とし， $B$  を

$$B = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{pmatrix}$$

とする． $F_B$  が生成するハミルトン方程式を解いて， $(\mathbf{q}(t), \mathbf{p}(t))$  を  $(\mathbf{q}(0), \mathbf{p}(0))$  と  $t$  で表せ．また， $(\mathbf{q}(t), \mathbf{p}(t))$  が  $t$  の周期関数であることを示し，その周期を求めよ．